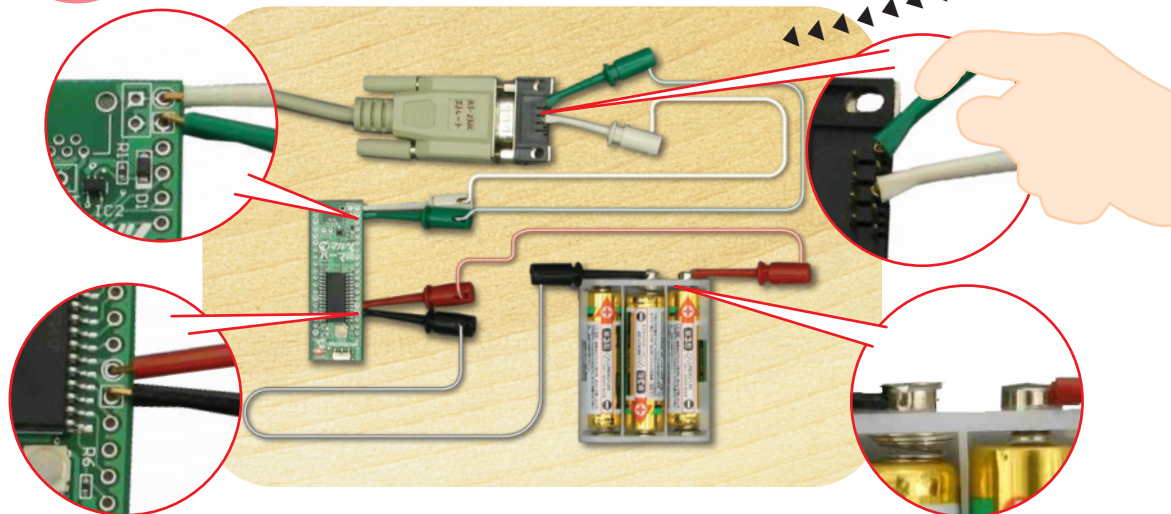


# はんだごては 要りません!

8月号付録基板は、本誌から付録基板を取り出したら、すぐ動作チェックが可能!



必要なのはたったの4点

- ① ICクリップ付きケーブル
- ② RS-232-Cケーブル
- ③ 単3乾電池 3本
- ④ 電池ホルダ

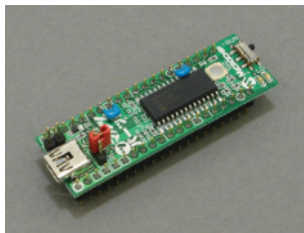
書き込み器も不要!

搭載プロセッサ dsPIC30F2012には、ブートローダと動作テスト・プログラムが書き込まれていますから、書き込み器は要りません。C言語でプログラムを書いたらコンパイルして、付録CD-ROMに収録されたダウンローダ(dsPICguy.exe)を使ってdsPICに転送します。



動作チェックが終わったら...

ピン・ヘッダをはんだづけして本格的にマイコン・プログラミングと電子回路工作を始めよう!

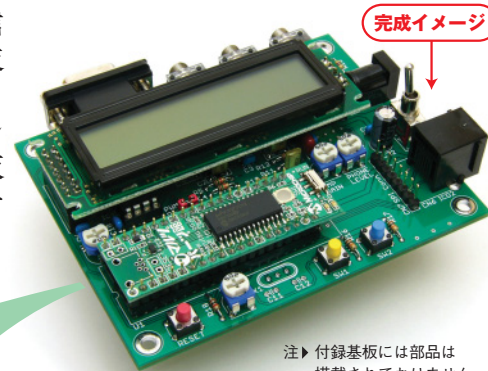


特集 周辺機能の操作から信号の加工まで!  
dsPICを徹底攻略

## 新生PICマイコン・トレーニング

付録基板 dsPICトレーニング用基板

A-D変換, PWM信号の生成, 信号処理, パソコンとの通信, 液晶ディスプレイの制御など, dsPICの機能をマスタできるトレーニング基板が付きまます。基板に搭載する部品セットの購入サポートも予定しています。



完成イメージ

注▶ 付録基板には部品は搭載されておりません

8月10日発売 予価 950円(本体905円)

こんな実験ができる!

液晶ディスプレイのコントロール

パソコンとのデータ通信

音声信号の入出力と加工

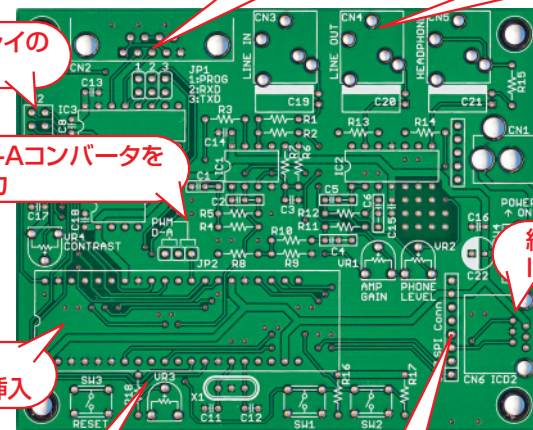
PWMまたはD-Aコンバータを使った音声出力

純正エミュレータICD2を接続できる

ここに8月号付録基板を挿入

A-D変換を使った音声入力

SPI, I<sup>2</sup>Cインターフェースで機能を増設



注▶ 写真の基板は開発中のものです